

山口営業所を開設

11月稼働 スイッチ輸送拠点に

広島―九州 1日20便発着

【広島】中国陸運（西尾義輝社長、広島県廿日市市）は新たに、山口市に営業所を開設する。既存施設を取得して改築を進めており、11月からスイッチ輸送の拠点として稼働する。

（矢野孝明）

中国陸運

山口市佐山の山口テクノ第2団地内で既存の物流施設を取得し、7月から改築を始めた。7

260平方メートルの敷地に、1500平方メートルの冷蔵倉庫と200平方メートルの冷凍倉庫、事務所などを備える。建物の壁面には、CI（コーポレート・アイデンティティ）で統一しているモノトーンを基にデザイン（完成予想図）



CIで統一しているモノトーンを基にデザイン（完成予想図）

の幹線輸送は、往復の輸送時間に荷物の積み下ろし時間を加えると、労務管理の観点から、ドライバーを専任で配置するのが難しかった。この課題を解決するため、中間地点となる山口市に中継拠点を構えることを決めた。

11月には稼働する計画で、広島と九州それぞれを結ぶ幹線輸送は、1日20便が発着する。中継地に位置付けると同時に、山口県に

おける共配網を強化する構えで、新拠点はデポとしても機能。既に新規業務の受託が決まっており、開設1年目で冷凍・冷蔵トラックを大型、中型それぞれ10台配備する。

西尾社長は「センターを中心に、走行時間が2時間以内の範囲で効率的な共配を提供する物流モデルを構築してきた。次は、九州にも自社拠点を構えたい」と話している。